

# ひかりの

7月号 東野小学校報 No. 4

「学ぶ」ということ 校長 青山龍三

先日の学級懇談で、きっと話は出ていたと思いますが、今年の夏季休業日もまた、宿題がたくさん出ます。「せっかく夏休みなのに、・・・」と、子ども達の声が聞こえてきそうです。いったいなぜ勉強なんかするんだろう、社会に出てから何にも役に立たないのに。私は、勉強がいやになるとこんなことを思いました。今はそんな風に思っていないです。もっといろいろ勉強しておけばよかった、と思っています。

町の見慣れた景色、家並み。この町の歴史をよく知っている人が見る風景と、単に目に映っている景色しか見えない私。あるいは、夜、星を見るとき、星座や星の成り立ち、宇宙の歴史をよく知っている人とそういうことを知らずに「きれいだなあ」と見ている私。こんなとき、知識は豊かに人生を過ごすために必要な物のひとつだったと感ずるのです。遅まきながら、最近歴史の本や星の本を読むようになりました。

ところで、なぜ私たちは「学ぶ」のでしょうか。

ここで、哺乳動物としてヒトを考えてみましょう。ヒトは成人になるのに20年くらいかかります。ヒト以外の高等な哺乳動物でも一人前になるのに、これほどの時間はかかりません。なぜそんなに時間をかけてヒトは一人前になるのでしょうか。ヒトはトラやライオンのように鋭い爪や牙を持っていません。鷹のように鋭い視覚もありません。犬のような嗅覚も、イルカのような泳力もありません。しかし、ヒトはすべて



の動物に君臨しています。なぜでしょうか。それは、優れた知恵を持っているからです。おおよそ400万年かけて、

ヒトは知恵を発達させてきました。木や骨や石を使った簡単な道具から、400万年かけて今日の文明社会に到達しました。この間、ヒトは休むことなく連綿と学び続け、先人の知恵を受け継ぎ、新しい知恵を生み出してきました。まさに、この「学ぶ」という行動こそが、ヒトの力の源泉であり、どのような強力な牙や爪にも勝る武器であり、ヒトがこの地球に生きていくうえでなくてはならない必須の行動です。私たちに、意識的であれ、無意識であれ、「学ぶ」という行動が生得の能力として備わっているようです。



ヒトの行動、考え方など、あらゆる行為は学んででき上がったものです。「学ぶ」という行動は、何も教科書や書物からだけとは限りません。私は、その学び方、学ぶ内容などを文化と呼んでよいかと思っています。文化があって、ヒトは人になるのです。

私たちが生きているこの世界は、膨大な先人の文化の上に成り立ち、あたかも地層のように過去400万年の歴史、文化が積み重なって現在の世界があります。「学ぶ」ということを言い換えれば、この地層の数々の特徴を観察し、記録するということ



ではないでしょうか。そうすることがひいては、自分の人生を豊かに送るための指針となると思います。

「学ぶ」ということをせまい範囲で捉えないで、この世界のすべてが学ぶための対象であると捉えれば、子ども達にしても、私のようなものにしても学ぶ姿勢が生まれてくると信じます。そうなれば、「学ぶ」とは楽しく、生きる糧になるでしょう。

長い休みが近づいています。ぜひこの機会に先人が積み上げた地層の一部に触れてみませんか。(恵那市教育委員会総務課長 西部良治先生が書かれた文を参考にしました。)